

〔論 文〕

長期滞在者に対する市民意識と行政の役割

——釧路市の長期滞在事業に関する市民意識調査の結果から——

森 重 昌 之
小 原 満 春

I 緒 言

私たちが暮らす現代社会は、人・モノ・情報の移動の量が著しく増大するだけでなく、その空間的な範囲も拡大するなど、移動を前提に社会が形成される「移動（型）社会（モビリティ社会）」といえる。2020年初頭に始まった新型コロナウイルスの感染拡大によって、人びとの往来が一時停滞したものの、その間もモノや情報の活発な移動によって、私たちの生活は支えられてきた。また、コロナ禍によってテレワークやリモートワークが浸透し、ノートPCや携帯情報端末、Wi-Fiなどを活用した「モバイルな生活」も日常化している（Elliott and Urry 2010：43-44）。

こうしたモビリティの高まりは、多様な移動者を生み出した。それらは、従来の観光客や移住者だけでなく、リピーターや長期滞在者、複数拠点生活者、アメニティムーバー、アドレスホッパー、テレワーカー、デジタルノマドなど、枚挙に暇がない。もちろん、以前からこのような移動者は存在していたであろうが、現在は特定の名称で呼ばれるほどにまで増加している。また、コロナ禍後にインバウンドも含めた旅行者数が急速に回復しつつあるように¹⁾、私たちは自由に移動することを望み、また移動することによって、さまざまな豊かさを享受している。その中には、「関係人口」と呼ばれる、特定の地域を頻繁に訪れ、地域社会に貢献する移動者も含まれる。特に、人口減少や労働力不足に陥っている地域にとって、このような移動者の

存在は大きいが、これも移動（型）社会の恩恵の1つといえよう。

しかし、モビリティの高まりは当然、地域に「いる」と考えられてきた住民についても当てはまる。移動（型）社会では、住民も自由に移動するようになり、地域で生活が続ける「定住」という前提が必ずしも成り立たなくなっている。つまり、定住者とされてきた住民が移動して地域を離れる一方で、関係人口のような地域外からの移動者が地域社会を支える役割を担うなど、移動（型）社会では住民と移動者の境界は曖昧になっている。

このように、現代社会は「定住型社会」から移動を前提とした「移動（型）社会」へと変わりつつある。その中で、今まで地域に「いる」住民によって支えられてきた地域社会を、今後は誰が、どのように支えていけばよいのか。また、どのようなしくみがあれば、地域社会を持続できるのだろうか。

この問いにすぐに応えることは難しいが、解決の糸口の1つとして、2010年代後半から注目を集めている関係人口があげられる。関係人口とは「特定の地域に継続的に関心を持ち、関わるよそ者」（田中 2021：77）とされ、総務省もモデル事業を実施するなどして、関係人口の創出・拡大に取り組んでいる。こうした関係人口への期待が高まる反面、その概念の曖昧さも指摘されている（作野 2019：13-14；橋本 2022：69-70）。また、現在の関係人口の議論は、地域社会と移動者の関係性を深めることに重点を置く試みが中心で、地域側は地域社会への関与の

深い人を評価しがちであるという指摘もある(敷田 2023: 38)。

移動(型)社会が到来する中で、地域社会の持続について考えるためには、関与の深さだけでなく、より自由な地域社会と移動者の関係性を模索する必要がある。森重・敷田(2023)は、移動者が「何をするのか(内容)」と「何を求めているのか(目的)」という2つの観点から移動者の分類を試み、私的な利益を求めてやって来る移動者も含め、多様な関係性が構築できることを主張した。

とりわけ人口減少局面に入った日本では、地域社会が多様な移動者とどのように向き合うかは重要な課題である。その中で、観光客や移住者に対する住民意識に関する調査・研究はいくつか見られる。例えば、日本交通公社(2013)は三重県鳥羽市、北海道登別市、長野県安曇野市で観光に対する住民意識を調査し、住民と観光客、観光関連産業従事者、行政の関係性を分析している。また、堀本(2018)は沖縄県竹富町鳩間島で観光に対する住民意識の悉皆調査を実施し、観光客の増加を望む住民が多いものの、それに伴う島の変容に対しては肯定的な評価と否定的な評価に分かれると指摘している。さらに、遠藤(2024)は高知県大豊町で移住者に対する住民意識の悉皆調査を行い、移住者と日常的な接触機会がないとする既住者の割合が約6割である一方、接触機会が増えると行政の移住政策を重視する比率が高くなる傾向を明らかにしている。このように、観光客や移住者に対する住民意識に関する調査・研究はあるものの、それ以外の移動者を対象とした研究はほとんど見られない。

そこで、本研究は北海道釧路市を対象に、長期滞在事業に対する市民意識調査を実施した。釧路市を取り上げる理由として、①2011年度以降北海道内で最も長期滞在者数・延べ滞在日数が多いこと、②行政が長期滞在者に向けたさまざまな取り組みを実施しており、協力を得やすいこと、③長期滞在にかかるデータを詳細に把握していることがあげられる。釧路市の長期滞

在事業の概要については後述するが、市民意識調査の結果と既往研究で得たデータから、市民は長期滞在者の増加や行政の取り組みをどのように捉えているのか、長期滞在者の増加を支持する市民にはどのような特徴が見られるのか、また長期滞在者に対する市民意識の形成にあたり、行政の長期滞在事業がどのような影響を与えているのかについて明らかにする。これらを通して、移動(型)社会における住民と移動者の関係のあり方を考察し、地域社会の持続に向けた方途を探ることを本研究の目的とする。

Ⅱ 釧路市の長期滞在事業の概要

釧路市は北海道東部の太平洋岸に位置し、面積が1,362.92km²の道東の中核・拠点都市である。釧路市では、酪農業や水産業といった第一次産業に加え、大規模な食品・製薬工場や製紙工場のほか、国内唯一の坑内掘り炭鉱が操業している。人口は1980年の227,234人をピークに減少が続いており、2020年国勢調査人口は165,077人であった。

釧路市は夏季の冷涼な気候に加え²⁾、ある程度の都市的利便性を享受できることや豊かな自然環境に恵まれていることもあり、毎年多くの長期滞在者が訪れている。詳細については、森重ほか(2020)や森重(2023b)を参照されたいが、2023年度の長期滞在者数は2,026人、延べ滞在日数は25,148日で、うち2週間以上滞在した者は200人(9.9%)であり³⁾、コロナ禍前の2019年度の水準にまで回復している。

長期滞在者は一般に、私的な利益、つまり自身が求める条件を満たす地域に一時的に滞在するだけであり、滞在先の活力や賑わいの創出といったまちづくりに関心を持つことは少ない。釧路市の長期滞在者も冷涼な気候や都市的利便性、豊かな自然環境といったアメニティを求めて訪れる、一時滞在者に過ぎない。にもかかわらず、釧路市を訪れる長期滞在者の中には、さまざまな地域活動にかかわる者が現れている。例えば、釧路川の河畔清掃ボランティアを行う

「釧路川元気の会」に参加したり、釧路湿原再生ボランティア活動にかかわったりしている。また、毎年8月に行われる「くしろ港まつり」の市民踊りパレードには20～30名の長期滞在者が参加し、祭りを盛り上げている。さらに、アイヌ刺繍やアイヌ楽器を学ぶ文化サークルで展示会を開催したり、小学生との交流会に参加したり、居住地に戻ってから都市部で開催される「移住体験フェア」に応援に行き、釧路での体験談を来場者に伝えたりする長期滞在者もいる。ほとんどが長期滞在期間中のみのかかわりであるが、地域の活力や賑わいの創出の一助になっている。

このように、一部の長期滞在者が地域活動にかかわる理由について、森重ほか(2020:53)は、長期滞在者が市役所職員だけでなく、文化サークルや買い物、近所付き合いなどで触れ合う市民の温かさに触れ、「釧路に恩返しをしたい」と考えるようになることを明らかにしている。確かに、市役所は長期滞在者の活動を支えるさまざまなサービスを行っているほか、市内で活動するNPO法人グローバルみらいネットも長期滞在者と市民が交流する場として、「ポストクラブ」を開設している。

このうち、市役所職員が長期滞在者に対して親切で温かい対応をとる要因について、森重(2020:56)は市役所職員への聞き取り調査などから、以下の4点を指摘している。それは、①長期滞在事業の開始当初は長期滞在に関する情報が少なく、長期滞在者のニーズを聞き出さないと事業が進められなかったこと、②長期滞在者数を増やし、彼らのニーズに応えること自体が職員のモチベーションにつながっていること、③長期滞在者に関するデータを定量的に把握し、予算獲得や広報に活用できていること、④長期滞在事業に関して市民からの否定的な反応がほとんどないことである。しかし、市民がなぜ一時滞在者に過ぎない長期滞在者に対し、寛容な態度をとるのかについては、これまで明らかにされていない。

Ⅲ 市民意識調査の概要と回答者の属性

釧路市民はなぜ長期滞在者に寛容な態度をとるのか、そもそも市民は長期滞在者の増加や市役所の取り組みについてどのように捉えているのかを明らかにするため、市民を対象とした意識調査を行った。市民意識調査は、釧路市総合政策部市民協働推進課と共同で実施した。調査対象者は、釧路市内で長期滞在者が利用する公共施設や商業施設、宿泊施設などが立地し、長期滞在者を見かける機会があると想定される6地区に住民票がある市民4,000名を、郵便区ごとに無作為抽出した。抽出率は2.92%であった。各地区の人口および抽出数を表1に示す。

表1 地区別人口および抽出数

地区名	人口	郵便区	抽出数
橋北地区	4,690 人	085-00	1,660 人
鉄北地区	18,096 人		
愛国地区	33,887 人		
橋南地区	21,984 人	085-08	1,487 人
春採地区	28,787 人		
鳥取地区	29,129 人	085-09	853 人
計	136,573 人		4,000 人
(釧路市)	158,287 人	-	-

(注) 抽出にあたっては、2023 年 9 月末現在の人口に基づいた。

市民意識調査では個人属性のほか、長期滞在者の認知、市役所の事業の認知や評価、長期滞在者との交流の経験や意向、長期滞在者や観光客の増加に対する評価、長期滞在者が地域活動にかかわっていることに対する認知、釧路市民のイメージなどについて尋ねた。回答にあたっては、QRコードを付した依頼状と「釧路市の長期滞在について」という長期滞在事業の概要を紹介するA4判両面1枚の資料を郵送し、QRコードを読み取って、Google Formsにて答える方式を採用した(依頼状、紹介資料、質問項目は18～23ページ参照)。依頼状にはQRコードのほか、URLも付したが、PCやスマート

フォンなどを持っていない市民は回答できず、市民協働推進課によると、市役所へ数件問い合わせがあった。依頼状は11月1日に郵送し、回答期限は11月30日とした。

質問票の回答者数は714人、回収率は17.9%であった。参考までに、釧路市市民協働推進課が2022年10～11月に実施した「男女平等に関する市民意識調査」のインターネット回収率は5.1%であった。もちろん、調査の時期や内容、郵送回答との併用といった方法などが異なるため、単純に比較はできないものの、この調査と比べると高い回収率であった。

回答者の属性のうち、年代は40代が19.5%と最も多く、50代が18.8%、30代が16.2%と続いている。なお、10代未満を除く釧路市の年代別人口割合は70代以上が29.9%と最も多く、次いで60代と50代が14.9%となっている。釧路市の年代別人口と比べると、30代、40代の回答割合が高い一方、70代以上の回答割合が低い(表2)。また、回答者の性別は男性が40.9%、女性が56.6%、答えたくないが2.5%であり、釧路市全体(男性47.0%、女性53.0%)に比べると、女性の回答割合がやや高かった。

表2 回答者と釧路市人口の年代別割合

年代	回答者	釧路市
10代	60人(8.4%)	12,665人(8.5%)
20代	64人(9.0%)	13,137人(8.8%)
30代	116人(16.2%)	14,145人(9.5%)
40代	139人(19.5%)	20,370人(13.6%)
50代	134人(18.8%)	22,189人(14.9%)
60代	114人(16.0%)	22,233人(14.9%)
70代以上	87人(12.2%)	44,660人(29.9%)

(注) 各項目の左側が人数、右側が割合を示す。

回答者の職業については、有職者が64.7%、無職が25.5%、学生が8.7%、その他が1.1%であった。また、回答者の釧路市の在住年数は、11年以上が81.7%を占め、6～10年が7.1%、3～5年が6.2%、1～2年が2.7%、1年未満が2.4%であった。また、サークル活動に参加し

ている、あるいは以前参加していたことがあると答えた回答者は28.6%、ボランティア活動やNPO活動に参加している、あるいは以前参加していたことがあると答えた回答者は21.8%であった。さらに、回答者の1年間の旅行頻度については、1～2回が45.8%と最も多く、まったく行かないが25.5%、3～5回が22.5%、6回以上が6.2%であった。

Ⅳ 市民意識調査の結果

1. 長期滞在者の認知

まず、釧路市に長期滞在者が毎年多数訪れていることを知っているかどうか尋ねたところ、「よく知っている」が31.0%、「何となく知っている」が37.3%であった(図1)。市役所によると、特に2023年の夏季は全国的に猛暑で、釧路市の長期滞在がマスメディアで取り上げられることが多かったことなどが影響しているのではないかとのことであった。

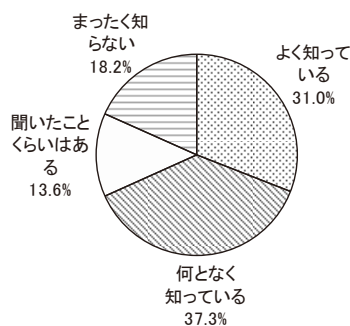


図1 長期滞在者の認知

2. 市役所の長期滞在事業の認知

市役所は釧路市を訪れる長期滞在者を支援するためにさまざまな事業を実施している。市役所がこうした事業を実施していることを知っているかどうか尋ねたところ、「よく知っている」が8.8%、「何となく知っている」が23.9%であった。一方、40.5%が「まったく知らない」と答えており(図2)、長期滞在者の認知度に比べると、市役所の長期滞在事業の認知度は低い。

Oct. 2024

長期滞在者に対する市民意識と行政の役割

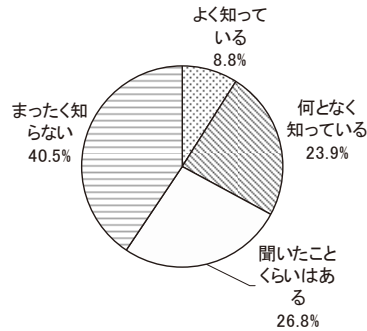


図2 市役所の長期滞在事業の認知

3. 市役所の長期滞在事業に対する評価

長期滞在者を受け入れるため、市役所がさまざまな事業を実施していることについて、どう思うか尋ねたところ、「とても良い」が42.7%、「良い」が42.9%であった(図3)。市役所の長期滞在事業の認知度はそれほど高くないにもかかわらず、回答者の長期滞在事業に対する評価は高かった。

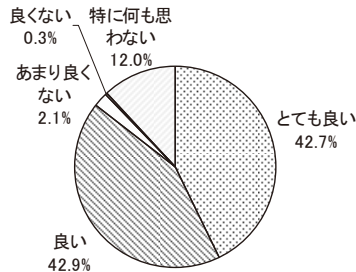


図3 市役所の長期滞在事業に対する評価

4. 長期滞在者との交流の経験

鉧路市を訪れる長期滞在者と話したことがあるかどうか尋ねたところ、「はい」と答えた回答者は15.4% (110人)であった。「はい」と答えた市民にどのような場面で話したか尋ねたところ、サークルやスポーツ、イベントなどの「趣味の場」が28人、町内会を含む「近所」が17人、「買い物」が12人であった(複数回答)。また、「その他」と答えた回答者が45人であり、そのうち職場が20人と多いほか、飲食店やボランティア、散歩中などの回答も見られた。これらのことから、長期滞在者が市民と同じように日

常生活を送っている様子がうかがえる。

5. 長期滞在者との交流の意向

鉧路市を訪れる長期滞在者とかかわってみたいと思うかどうか尋ねたところ、「ぜひかかわってみたい」が9.8%、「多少はかかわってみたい」が31.2%であった。最も多い回答は「どちらでもない」で48.9%であった(図4)。市役所の長期滞在事業の評価は高いが、長期滞在者とかかわってみたいと考えている回答者は必ずしも多いとはいえない。

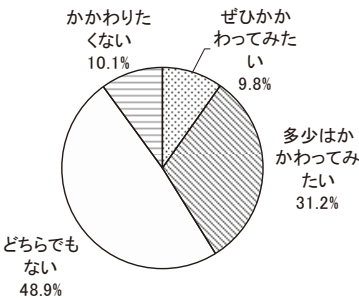


図4 長期滞在者との交流の意向

6. 長期滞在者の増加に対する評価

鉧路市に長期滞在者が増えることについて、どう思うか尋ねたところ、「とても良い」が47.5%、「良い」が38.1%であった(図5)。「あまり良くない」と「良くない」を合わせても2.8% (20人)に過ぎず、多くの回答者が長期滞在者の増加を好意的に捉えている。

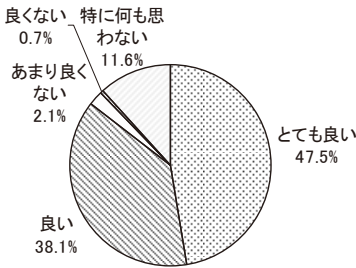


図5 長期滞在者の増加に対する評価

「とても良い」、「良い」を選んだ回答者にその理由を選択式で尋ねたところ、「多くの人びと

に釧路市を知ってもらえるから」が71.6%と最も多く、以下「釧路市にお金を落としてくれるから」が64.4%、「釧路市の人口が減っているから」が47.7%、「いろいろな人びとと交流できるから」が32.6%であった(複数回答)。経済的な効果よりも釧路市の認知度向上への期待が大きいほか、人口減少に対する懸念も見て取れる。一方で、「いろいろな人びとと交流できるから」という長期滞在者との交流意向については、他の項目に比べると高くない。

また、「とても良い」、「良い」を選んだ回答者に長期滞在者を増やすために市役所が取り組むべき意見やアイデアを自由記述式で尋ねたところ、「魅力の発信・情報提供」が65人と最も多かったほか、「SNSやインターネットなどによる情報発信」が17人、「市民に向けた長期滞在事業の情報発信」が10人など、情報発信にかかる意見が多くあげられた(図6)。他に、「都心部の再整備・活性化、景観整備」や「買い物や子育てなどの生活環境の改善」、「交通機関の充実・利便性の向上」など、市民も含めた日常生活にかかる意見も多く見られた(複数回答)。

一方、「あまり良くない」、「良くない」を選んだ回答者(20人)にその理由を選択式で尋ねた

ところ、「税金を使ってまで増やす必要はないから」が13人、「混雑が増えそうだから」が8人、「静かに暮らしたいから」が7人、「今までと暮らしや文化が変わりそうだから」が3人、「その他」が5人であった(複数回答)。

7. 長期滞在者が地域活動にかかわっていることに対する認知

長期滞在者がボランティアや祭り、文化サークルなど、市民とともに地域を盛り上げたり、貢献したりする活動に参加していることを知っているかどうか尋ねたところ、「よく知っている」が5.3%、「何となく知っている」が17.9%、「聞いたことくらいはある」が23.2%であった(図7)。釧路市に長期滞在者が訪れていることは多くの回答者が認知していたが、長期滞在者の地域活動へのかかわりは回答者の半数以上が認知していないことが明らかになった。

8. 観光客の増加に対する評価

地域外からの来訪者の代表例として観光客があげられることから、釧路市に観光客が増えることについてどのように思うか尋ねた。その結果、「とても良い」が58.0%、「良い」が36.1%で

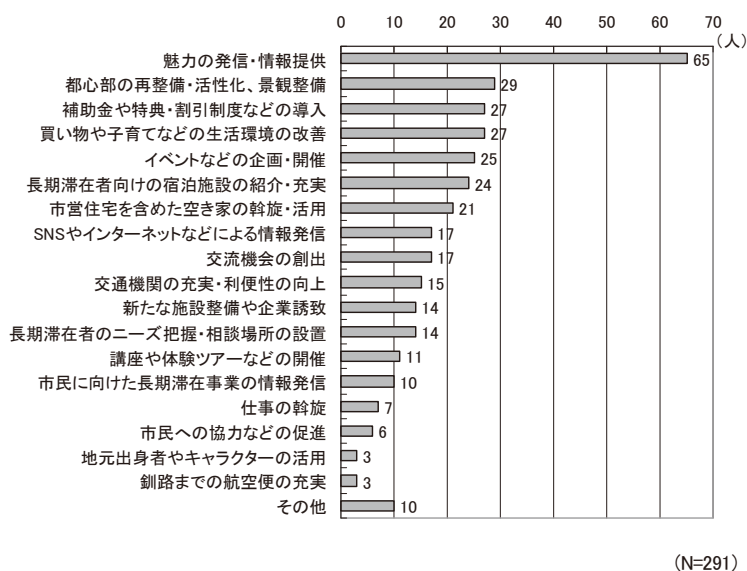


図6 長期滞在者の増加に向けた提案

Oct. 2024

長期滞在者に対する市民意識と行政の役割

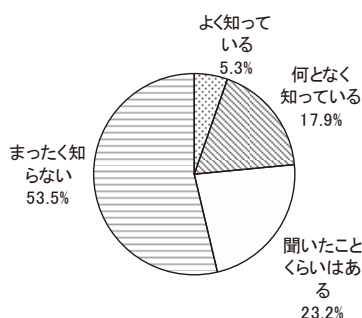


図7 長期滞在者の地域活動への参加の認知

あった(図8)。長期滞在者の増加に対する評価と比較すると、回答者は観光客をより好意的に受け止めており、観光客の増加が「良くない」という回答は見られなかった。

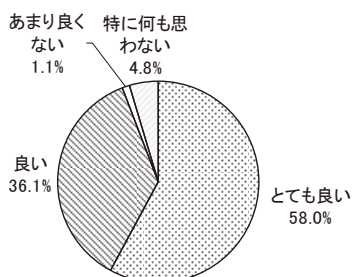


図8 観光客の増加に対する評価

9. 釧路市民のイメージ

前述したように、長期滞在者は文化サークルや買い物、近所付き合いなどで触れ合う市民の温かさを高く評価していたが(森重ほか 2020: 53)、市民自身は親切で温かいと感じているのであろうか。そこで、回答者が思う釧路市民の

イメージについて5件法で尋ねた⁴⁾。まず、「積極的・行動的⇔落ち着いた」の平均値は3.58で、「落ち着いた」のウェイトがやや高い。次に、「親しみやすい⇔遠慮がち」の平均値は3.32で、やや遠慮がちなイメージを持っている。「楽観的⇔現実的」については平均値が3.11で、どちらでもないと捉えている。また、「おおらか⇔こまやか」は平均値が2.75で、どちらかといえばおおらかな印象を抱いている。最後に、「外向的⇔内向的」の平均値は3.65で、内向的な市民性であると考えている(図9)。

これらの結果から、釧路市民のイメージは落ち着いた、遠慮がちで、おおらかで、内向的な市民と考えていることがわかる。回答者自身の遠慮がちで内向的な市民イメージと、長期滞在者が抱く親切で温かい印象にはギャップが見られることが明らかになった。

10. 長期滞在に関する自由意見

最後に、釧路市の長期滞在に関する意見を自由記述形式で求めた。その結果、171件の回答があり(「特になし」などの記述は除く)、長期滞在者の増加に向けた提案(図6)と同様、「釧路の魅力の情報発信」が19件で最も多い(図10)。以下、「市民と長期滞在者の交流機会の創出」と「長期滞在者の受け入れに肯定的な意見」がそれぞれ16件、「まちの再整備・活性化、景観整備」と「空き家の活用など、滞在施設の対策」がそれぞれ13件と続いている。長期滞在者の受け入れ促進にかかる意見が多い一方で、市役所が長期滞在事業に取り組むことに対する疑問(12件)

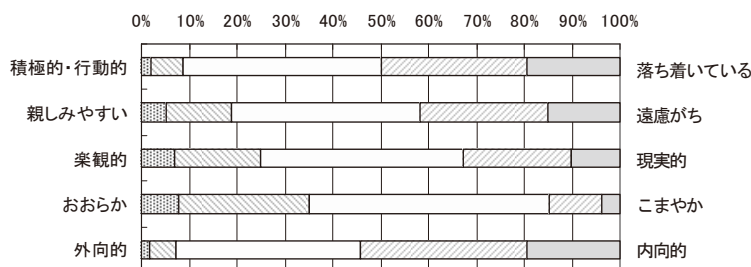


図9 回答者による釧路市民のイメージ

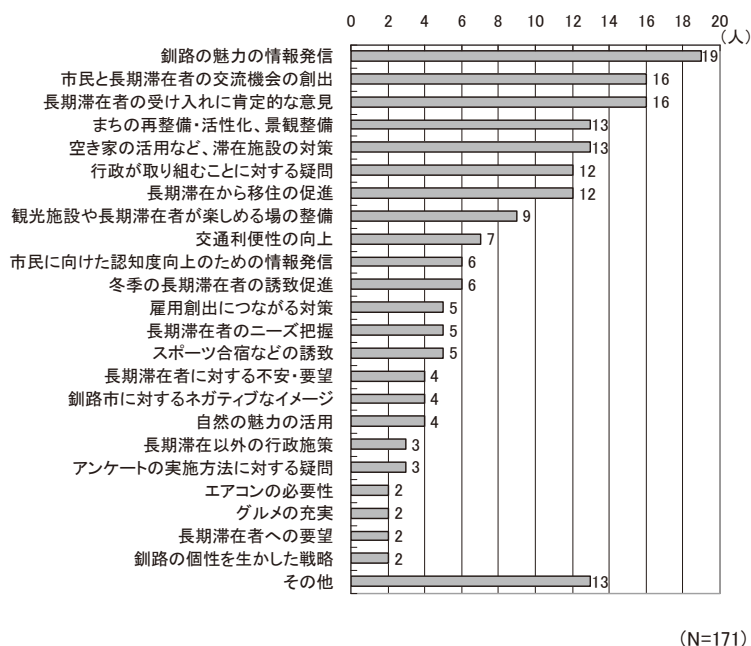


図10 長期滞在に関する自由意見

や長期滞在者が訪れることに対する不安・要望（4件）、長期滞在事業以外の取り組み推進の要望（3件）なども少なからず見受けられる。

V 分析

1. 長期滞在者の増加に対する市民意識

まず、釧路市に長期滞在者が多数訪れていることについて、回答者の68.3%が「よく知っている」もしくは「何となく知っている」と答えている。一方、長期滞在者と話したことがあると答えた回答者は15.4%であった。長期滞在者との交流経験がある回答者はそれほど多くないが、長期滞在者の認知度が高い要因として、前述したように、2023年の夏季は全国的に猛暑が続き、冷涼な気候を求めて多くの人びとが釧路市を訪れていることがマスメディアで報道される機会が多かったことなどが影響していると考えられる。

次に、長期滞在者を受け入れるため、市役所がさまざまな事業を実施していることについて、「よく知っている」と答えた回答者は8.8%、

「何となく知っている」が23.9%である一方、40.5%が「まったく知らない」と答えていた。市役所の長期滞在事業の認知度は高くないが、長期滞在者を受け入れるために市役所が事業を実施していることについては、42.7%が「とても良い」、42.9%が「良い」と答えており、長期滞在事業の評価は高い。このように、長期滞在事業に対する「認知」は低い、その「支持」は高いという結果から、長期滞在事業の内容そのものよりも、行政施策として長期滞在者の増加に取り組んでいることの重要性を評価しているものと考えられる。

また、長期滞在者が増えることについては、「とても良い」が47.5%、「良い」が38.1%であり、ほとんどの回答者が長期滞在者の増加を肯定的に捉えていた。「とても良い」、「良い」を選んだ理由は「多くの人びとに釧路市を知ってもらえるから」が最も多く、釧路市の認知度を高めることを重視していた。このことは、長期滞在者を増やすために市役所が取り組むべき意見やアイデアで、「魅力の発信・情報提供」が最も多かったほか、「SNSやインターネットなどによ

Oct. 2024

長期滞在者に対する市民意識と行政の役割

る情報発信」や「市民に向けた長期滞在事業の情報発信」など、市民向けも含めた情報発信による認知度向上にかかる意見が多くあげられたこととも共通している(図6)。

加えて、「釧路市にお金を落としてくれるから」や「釧路市の人口が減っているから」の回答も多い。釧路市では1980年をピークに人口減少が続いているほか、中心市街地の空洞化や大手企業の撤退などもあり、地域衰退に対する危機感が背景にあると考えられる。長期滞在者と同様、回答者は観光客の増加にも肯定的であり、観光客が増えることについても58.0%が「とても良い」、36.1%が「良い」と答えている。それに

対し、「いろいろな人びとと交流できるから」は相対的に少なく、長期滞在者との交流意向から、回答者は長期滞在者との交流を強く求めているわけではないことがわかる。これらのことから、長期滞在者の増加に対する「支持」は高いが、長期滞在者との交流といった「行動」を伴う意向は低いといえ、回答者は具体的な効果を期待しているというよりもむしろ、漠然と長期滞在者の増加を肯定的に受け止めていると考えられる。

2. 長期滞在者の増加を支持する市民の特徴
このように、回答者の多くが長期滞在者の増

表3 長期滞在者の増加の肯定層と否定・無関心層の比較

項目	層	度数	回答	平均値	F 値
1. 長期滞在者の認知	肯定	611	4 件法	2.94	68.730***
	否定・無関心	103		2.04	
2. 市役所の長期滞在事業の認知	肯定	611	4 件法	2.11	45.124***
	否定・無関心	103		1.42	
3. 市役所の長期滞在事業の支持	肯定	611	5 件法	4.42	264.596***
	否定・無関心	103		3.28	
4. 長期滞在者との交流意向	肯定	611	4 件法	2.52	98.688***
	否定・無関心	103		1.73	
5. 長期滞在者との交流実績	肯定	611	2 件法	1.17	10.404**
	否定・無関心	103		1.05	
6. 長期滞在者の増加の支持	肯定	611	5 件法	4.55	1,127.513***
	否定・無関心	103		2.76	
7. 長期滞在者の地域活動参加の認知	肯定	611	4 件法	1.84	37.701***
	否定・無関心	103		1.24	
8. 観光客の増加の支持	肯定	611	5 件法	4.63	200.477***
	否定・無関心	103		3.78	
11-4. 在住年数	肯定	611	5 件法	4.64	1.124
	否定・無関心	103		4.54	
11-5. サークル活動の参加	肯定	611	3 件法	1.36	9.308**
	否定・無関心	103		1.11	
11-6. ボランティア活動・NPO活動の参加	肯定	611	3 件法	1.18	2.185
	否定・無関心	103		1.09	
11-7. 旅行頻度	肯定	611	4 件法	2.13	6.793**
	否定・無関心	103		1.89	

注) $p < 0.001$ *** $p < 0.01$ ** $p < 0.05$ * $p < 0.10$
回答(件法): 1 ネガティブー 5 ポジティブで集計 (1. 悪い・知らないー無関心ー 5. 良い・知っている)

n=714

加や市役所の長期滞在事業を肯定的に評価していることが明らかになった。そこで、長期滞在者の増加を支持する85.6% (611人)の回答者(以下、「肯定層」という)と支持しない2.8% (20人)の回答者(以下、「否定層」という)、特に何も思わないと答えた11.6% (83人)の回答者(以下、「無関心層」という)に分類した。そして、否定層と無関心層を統合し、肯定層との2つのグループに分類し、両グループ間で回答傾向に統計的に有意な差があるかどうかを確認するため、分散分析(ANOVA)を行った。その結果を表3に示す。

各質問項目の回答は、リッカートスケールによる2件法から5件法によって得られた順序尺度のデータであり、得られた数値データについては、数値が高い方がポジティブな回答(良い、知っている、参加しているなど)であり、数値が低い方がネガティブな回答(悪い、知らない、参加しないなど)である。以上のように得られた数値データから、分析結果を概観する。

まず、長期滞在者の認知に関しては、肯定層(平均値2.94(以下、数値のみ記載する))と否定・無関心層(2.04)の平均値に有意差が認められ($F(1, 711) = 68.730, p < 0.001$)、肯定層の方が有意に高い認知度を示した。市役所の長期滞在事業の認知についても、肯定層(2.11)と否定・無関心層(1.42)の間に有意な差があった($F(1, 711) = 45.124, p < 0.001$)。肯定層は否定・無関心層に比べて有意に高い認知度を示している。次に、市役所の長期滞在事業の支持に関して、肯定層(4.42)と否定・無関心層(3.28)の間に有意な差が認められた($F(1, 711) = 264.596, p < 0.001$)。肯定層が否定・無関心層に比べて有意に高い支持を示している。長期滞在者との交流意向については、肯定層(2.52)と否定・無関心層(1.73)の間に有意な差が確認された($F(1, 711) = 98.688, p < 0.001$)。肯定層は否定・無関心層よりも有意に高い交流意向を示している。また、長期滞在者との交流実績において、肯定層(1.17)と否定・無関心層(1.05)の間に有意な差が認められた($F(1, 711) = 10.404,$

$p < 0.01$)。肯定層は否定・無関心層よりも有意に多くの交流実績を示している。次に、長期滞在者の増加の支持に関しては、肯定層と否定・無関心層を分類した元データであるため当然ではあるが、肯定層(4.55)と否定・無関心層(2.76)で有意な差があった($F(1, 711) = 1,127.513, p < 0.001$)。長期滞在者の地域活動参加の認知については、肯定層(1.84)と否定・無関心層(1.24)の間では有意な差が認められた($F(1, 711) = 37.701, p < 0.001$)。回答は4件法であるが、両方の層において平均値が1と他の項目と比較すると低い。このことから認知度は低いと考えられるものの、肯定層が否定・無関心層よりも有意に高い認知を示している。そして、観光客の増加の支持については、肯定層(4.63)と否定・無関心層(3.78)の間に有意な差があった($F(1, 711) = 200.477, p < 0.001$)。肯定層は否定・無関心層に比べて有意に高い支持を示している。

次に、個人属性のうち、在住年数は得られたデータが順序尺度のため、年数を示すものではないが、肯定層(4.64)と否定・無関心層(4.54)で有意な差は認められなかった($F(1, 711) = 1.124, p = 0.290$)。サークル活動の参加については、肯定層(1.36)と否定・無関心層(1.11)の間に有意な差が認められた($F(1, 711) = 9.308, p < 0.01$)。一方で、ボランティア活動・NPO活動の参加については、肯定層(1.18)と否定・無関心層(1.09)に有意な差は見られなかった($F(1, 711) = 2.185, p = 0.140$)。最後に、旅行頻度については、肯定層(2.13)と否定・無関心層(1.89)の間に有意な差が確認された($F(1, 711) = 6.793, p < 0.01$)。

以上の結果から、ほとんどの項目で肯定層が有意に高い結果となった。一方で、それぞれの項目の分析結果について詳細に確認すると、市役所の長期滞在事業や長期滞在者の地域活動参加といった「認知」に関する項目は、4件法にもかかわらず、両層において平均値が1や2が多い。さらに、肯定層と否定・無関心層の差を示すF値も、市役所の長期滞在事業や長期滞在者

Oct. 2024

長期滞在者に対する市民意識と行政の役割

の増加といった「支持」と比較すると低い。このことから、両層の回答者の長期滞在に関する「認知」はやや低く、かつ肯定層と否定・無関心層の認知度の差も大きくないといえる。一方、「支持」に関する項目はF値が大きい、つまり肯定層と否定・無関心層の「支持」の差は大きい。さらに、肯定層の平均値は4.5前後であることから、長期滞在に関して強く支持する傾向がうかがえる。一方、否定・無関心層でも平均値が3程度であることから、強く否定しているわけではないことが推察される。ただし、長期滞在者との交流実績やサークル活動の参加、ボランティア活動・NPO活動の参加といった「行動」を伴う項目については、肯定層においても平均値が1程度である。

これらのことから、肯定層の特徴としては、長期滞在者や長期滞在事業に関する認知は低く、交流やサークル・ボランティアなどの活動

にはあまりかかわっていないが、長期滞在者の増加や市役所の長期滞在事業は強く支持をしているということである。また、長期滞在者のみならず、観光客に対する受け入れについても肯定的であることから、肯定層は長期滞在者や観光客といった区分をすることなく、来訪者の受け入れに寛容な姿勢があることが示唆される結果となった。

3. 長期滞在者との交流意向に関する特徴

分散分析の結果から、交流や参加といった行動を伴う項目については、両層ともに数値的に低い結果となった。そこで、将来的な長期滞在者との交流する意欲を示す長期滞在者との交流意向を従属変数とし、その他の項目を独立変数とした重回帰分析を行った。これは、両層の交流意向がどのような要因によって影響を受けるのかを明らかにすることで、今後の住民と長期

表4 交流意向に影響を与える要因（肯定層）

肯定層				R	R ²	調整済み R ²	推定値の標準誤差	有意確率
				0.432	0.187	0.178	0.720	0.000
従属変数	独立変数	非標準化係数		標準化係数	t 値	有意確率	共線性の統計量	
		B	標準誤差	β			許容度	VIF
長期滞在者との交流意向	(定数)	0.350	0.355		0.986	0.325		
	6. 長期滞在者の増加の支持	0.404	0.069	0.253	5.863	0.000	0.969	1.032
	5. 長期滞在者との交流実績	0.381	0.097	0.176	3.922	0.000	0.894	1.118
	7. 長期滞在者の地域活動参加の認知	0.108	0.039	0.126	2.779	0.006	0.879	1.138
	11-4. 在住年数	-0.111	0.037	-0.129	-3.004	0.003	0.980	1.020
	11-5. サークル活動の参加	0.134	0.050	0.123	2.664	0.008	0.849	1.177

注) 肯定層／否定・無関心層＝肯定層に対するケースだけを選択

表5 交流意向に影響を与える要因（否定・無関心層）

否定・無関心層				R	R ²	調整済み R ²	推定値の標準誤差	有意確率
				0.361	0.131	0.110	0.501	0.013
従属変数	独立変数	非標準化係数		標準化係数	t 値	有意確率	共線性の統計量	
		B	標準誤差	β			許容度	VIF
長期滞在者との交流意向	(定数)	0.496	0.346		1.436	0.155		
	11-6. ボランティア活動・NPO 活動の参加	0.497	0.182	0.282	2.728	0.008	0.969	1.032
	3. 市役所の長期滞在事業の支持	0.206	0.076	0.281	2.721	0.008	0.969	1.032

注) 肯定層／否定・無関心層＝否定・無関心層に対するケースだけを選択

滞在者との交流を促進する要因を特定することができると考えたためである。重回帰分析では、変数の追加と削除を繰り返し、モデルの精度を高めるステップワイズ法を適用し、多重共線性の影響についてはVIFの値を注視ながらモデルの選択および分析を行った。

まず、表4の肯定層の結果を概観する。分析の結果、決定係数(R^2)は0.187であり、調整済み決定係数は0.178と、モデル全体が有意であることが示された($p < 0.001$)。この結果は、モデルが長期滞在者との交流意向を一定程度説明していることを示唆している。独立変数として、まず長期滞在者の増加の支持が交流意向に対して最も強い正の影響を与えていることが明らかになった($B = 0.404$, $\beta = 0.253$, $p < 0.001$)。これに続いて、長期滞在者との交流実績も有意な正の影響を示しており($B = 0.381$, $\beta = 0.176$, $p < 0.001$)、実際に交流を持った経験が交流意向を高める要因となっていることがわかった。さらに、長期滞在者の地域活動参加の認知が交流意向に有意な正の影響を及ぼしている($B = 0.108$, $\beta = 0.126$, $p = 0.006$)ことが確認され、長期滞在者の地域活動参加が認知されることで交流への積極性が高まることが示唆された。

一方で、在住年数は交流意向に対して有意な負の影響を持つことが明らかになった($B = -0.111$, $\beta = -0.129$, $p = 0.003$)。これは、在住期間が長くなるほど既存のコミュニティ内での生活に満足し、長期滞在者との新たな交流に消極的になる傾向を示している可能性がある。また、サークル活動の参加は交流意向に対して有意な正の影響を与えている($B = 0.134$, $\beta = 0.123$, $p = 0.008$)。これは、地域社会への参加が長期滞在者との交流意欲を促進することを示唆している。最後に、各独立変数に対する共線性の統計量(許容度およびVIF)を確認した。一般的に、VIFが10を超えると多重共線性が問題となる可能性があるとされている(O'Brien 2007)。しかし、今回の分析結果では各独立変数のVIFは1.1程度であり、多重共線性の問題がないことが確認された。

以上の結果から、長期滞在者の増加の「支持」や長期滞在者との交流実績、そして長期滞在者の地域活動参加の「認知」が、長期滞在者との交流意向を高める主要な要因であることが示された。また、在住年数が交流意向に負の影響を与えていることから、長期滞在者との交流を促進するためには、在住年数が長い市民への積極的なアプローチが必要であることが示唆された。

次に、否定・無関心層について、同様の分析を行った結果が表5である。決定係数(R^2)は0.131、調整済み決定係数は0.110であり、モデル全体の有意性が示された($p < 0.05$)。このモデルは、長期滞在者との交流意向を一定程度説明できることを示唆している。分析の結果、まずボランティア活動・NPO活動の参加が交流意向に対して有意な正の影響を与えていることが明らかとなった($B = 0.497$, $\beta = 0.282$, $p = 0.008$)。この結果は、地域活動への積極的な参加が長期滞在者との交流意向を高めることを示唆している。また、市役所の長期滞在事業の支持も交流意向に有意な正の影響を及ぼしている($B = 0.206$, $\beta = 0.281$, $p = 0.008$)。これにより、市役所の長期滞在事業に対する理解や支持が、長期滞在者との交流の意欲を増進させることが確認された。一方、定数項の推定値は0.496であり、標準誤差0.346に対して有意ではなかった(t 値 = 1.436, $p = 0.155$)。このことから、モデルに含まれる独立変数の影響を考慮しても、交流意向に対する一定の基礎レベルが存在することが示唆されるが、その基礎レベル自体は統計的には有意ではなかった。さらに、各独立変数に対する共線性の統計量(許容度およびVIF)を確認したところ、各独立変数の共線性は低く、VIFは1.1程度であるため、いずれも多重共線性の問題がないことが確認された(O'Brien 2007)。

以上の結果から、否定・無関心層においてもボランティア活動・NPO活動の参加および市役所の長期滞在事業の「支持」が、長期滞在者との交流意向に対して有意な影響を持つことが示された。このことは、長期滞在者との交流に否

Oct. 2024

長期滞在者に対する市民意識と行政の役割

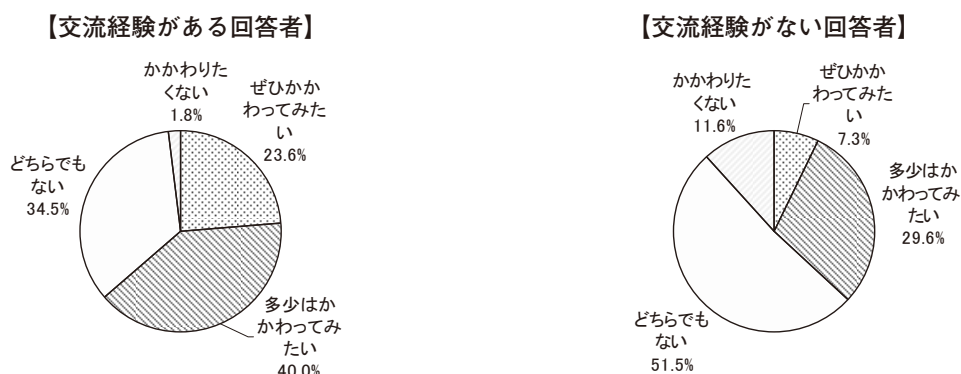


図11 長期滞在者との交流経験の有無による回答者の交流意向の相違

定的または無関心な態度を持つ層においても、積極的な地域活動への参加や長期滞在事業への理解促進が交流意向を高める効果を持つことを示唆している。

さらに、長期滞在者との交流意向に関連して、長期滞在者と話したことがある回答者の63.6%が、「ぜひかかわってみたい」あるいは「多少はかかわってみたい」と回答しており、「かかわりたくない」は1.8%（2名）にとどまった。また、交流経験の有無による交流意向を比較すると、交流経験のある回答者の方が、交流経験のない回答者に比べ、「ぜひかかわってみたい」、「多少はかかわってみたい」の回答割合が26.7ポイント高い（図11）。このことは、表4の交流経験が交流意向を高めるという結果と一致するほか、前述した高知県大豊町の移住者に対する住民意識調査でも同様の傾向が確認できる（遠藤 2024）。このように、長期滞在者との交流経験がある回答者の多くが、直接の交流を通して悪い印象を抱いておらず、市民と長期滞在者の良好な関係性がうかがえた。

Ⅵ 考 察

市民意識調査の結果、長期滞在者との交流経験がある回答者は15.6%、長期滞在者との交流意向がある回答者は41.0%と、「行動」の意向は必ずしも高いとはいえない。また、市役所の長期滞在事業を知っている回答者は32.7%、長期

滞在者が地域活動にかかわっていることを認知している回答者は23.3%にとどまっており、長期滞在者の実態が市民に十分に「認知」されているとはいえない。このように、認知や行動にかかる数値が低いにもかかわらず、多くの市民が長期滞在者の増加を肯定的に受け止めており、「支持」に関する数値は高かった。

一方、長期滞在者は市民の印象について、「商店街のオーナーやサークルで知り合った方は、皆さん人柄が良く、ウェルカムな雰囲気であった」、「長期滞在中に毎月4回サークル活動があるが、最初からよそ者として見られているという感じがしなかった」、「釧路に来て3日目にゴルフに行ったが、地元の方が分け隔てなく声をかけてくださり、素直に優しく見てくださる印象を持った」など、市民の親切さや温かさを評価する声は多い（森重 2023b：68-69）。しかし、市民意識調査の結果によると、釧路市民は「おおらか」であるものの、「落ち着いている」、「遠慮がち」、「内向的」のイメージであり、必ずしも積極的な交流を求めているとはいえない。

このように、市民は長期滞在者の実態を十分理解しているわけでも、強く交流を求めているわけでもないが、長期滞在者の増加を肯定的に捉えている。そして、長期滞在者から親切で温かな対応と評価されている。なぜ、このように市民と長期滞在者の良好な関係性が構築できているのであろうか。

その要因として、市役所の長期滞在事業が市

民と長期滞在者の交流に影響を与えていると推察される。市役所は長期滞在者数や延べ滞在日数などのデータ、彼らのニーズを把握し、それをもとに「くしろステイメンバーズカード」⁵⁾の発行や文化サークルの幹旋などの事業を実施しているほか、くしろ長期滞在ビジネス研究会を通して「地域学習講座」や交流会なども開催している。長期滞在者は不慣れな地域での暮らしに不安を持つこともあるが、市役所がさまざまなサポートを行うことで安心感を持つと同時に（森重 2023a：S3-1_2.3）、長期滞在者のニーズに応える市役所に対して好意的な印象を持つようになる。実際、毎年夏季の滞在期間中に市役所へ挨拶に訪れる長期滞在者も少なくない。そして、彼らは食事や買い物など、日常的な暮らしの場で接する市民に対しても、よりよく振る舞う行動を心がけるものと考えられる。

一方、市役所は長期滞在者数や延べ滞在日数などのデータを公表しているが、これらは新聞などのマスメディアを通して市民に肯定的に発信されている⁶⁾。実際、市民意識調査でも長期滞在者の増加だけでなく、観光客の増加に対しても寛容な姿勢が示された。特に、釧路市では人口減少や中心市街地の空洞化、大手企業の撤退など、地域衰退に対する漠然とした危機感があることから、長期滞在者をはじめとする地域外からの来訪者に対する期待も高まり、長期滞在にかかる報道は好意的に取り上げられることが市役所の長期滞在事業や長期滞在者の増加の「支持」につながっていると考えられる。

しかし、市民意識調査によると、市役所の長期滞在事業に対する認知度は「よく知っている」が8.8%、「何となく知っている」が23.9%で、「まったく知らない」が40.5%を占めていた。このことから、市役所の情報発信の影響は小さいと考えることもできる。この点に関して、Yoo (2008: 14) はあくまでウェブ広告の例であるが、無意識であっても未知のブランド名に一度接するだけで、そのブランドに対する態度や選択に偏りが生じることがあり、その根拠について被験者が気づかない場合でも影響があると指摘し

ている。そして、うまく無意識に処理するにはウェブ広告への単純な接触が重要であり、その効果は消費者がウェブ広告に接触したこと気づかないまま発生すると述べ（Yoo 2008: 14）、偶発的な接触が潜在記憶に影響を与えるとしている。この考え方を援用すると、市民は長期滞在事業に対する顕在記憶は薄いですが、マスメディアなどとの偶発的な接触によって潜在記憶としてとどめている可能性が考えられる。その結果、市役所の長期滞在事業に対する評価も高まったものと推察される。

マスメディアを通じた長期滞在にかかる情報発信と地域衰退への漠然とした危機感から、市民は長期滞在者を「釧路市に必要な存在」と認識するようになる。そこによりよく振る舞う長期滞在者と接すると、長期滞在者に対して悪い印象を抱かないのではないかと。前述したように、長期滞在者との交流経験があると答えた回答者の57.2%が交流意向を持っていることも、その証左の1つといえよう。

また、市役所の長期滞在事業は市民と長期滞在者の交流の幅を広げる役割も担っている。市民と長期滞在者の接点は、食事や買い物などの日常生活における偶発的な出会いが多いが、市民意識調査の結果によると、サークルやスポーツ、イベントなどの「趣味の場」が最も多かった。市役所は長期滞在者が参加できる文化サークルを幹旋しているほか、くしろ長期滞在ビジネス研究会を通して地域学習講座や交流会など、市民と長期滞在者が触れ合う機会をつくり出している。さらに、前述した重回帰分析の結果からも明らかなように、長期滞在者との交流意向は肯定層、否定・無関心層のいずれも長期滞在者との交流実績やサークル活動の参加、ボランティア活動・NPO活動の参加といった「行動」を伴う項目が影響を与えている。市役所がこうした行動のきっかけを創出することで、市民と長期滞在者の良好な関係性の構築が期待できる。

ここで重要なことは、市役所と長期滞在者、あるいは市民と長期滞在者の個人的なつながり

が、地域社会とのつながりへと展開する可能性である。一般的に、食事や買い物などの場を通して個人的なつながりができたとしても、それは個人間か、せいぜいその友人までの関係にとどまることが多い。しかし、市役所の長期滞在事業は長期滞在者をサポートするだけでなく、市役所に対して好意的な印象をつくり出し、よりよく振る舞う行動を心がける契機となっているほか、市民と長期滞在者の幅広い交流の機会を生み出す役割も担っている。すると、特定の市民や長期滞在者が「ステレオタイプ化」され、長期滞在者は「釧路市は市民や市役所職員が親切で温かい」と、「地域社会」として認識するようになる。その結果、市民や市役所と長期滞在者の個人的なつながりから、地域社会と長期滞在者の関係性へと変化し、長期滞在者は釧路市そのものに関心を抱くようになる。それらが「市民や市役所職員が親切で温かい」と認識し、地域活動にかかわりたい、釧路市に貢献したいという長期滞在者の意識につながっているのではないかと考えられる。

さらに、市役所がかかわることによって、地域社会と長期滞在者の関係性を継続する役割も期待できる。個人的なつながりは個人の意欲に依存するため、関係を継続する上で不安定さを抱えている。この点について、深川（2024：199）は私発協働のまちづくりを提案する中で⁷⁾、私発アクター（個人の関心や問題意識あるいは自己実現を動機として地域における活動にかかわる人びと）は、一定の時間軸の中で地域社会に現れては消える存在であるので、個人の意欲に比較的左右されにくく、組織的かつ継続的に取り組み得る地縁組織と協働していくことが、私発アクターの力量を発揮させる要件となると述べ、個人から組織への橋渡しの重要性を指摘している。このように、市民や市役所職員と長期滞在者の関係に「組織」が緩やかに介在することで、地域社会と長期滞在者の関係性を継続しやすくなると考えられる。

VII 結 言

人口減少社会や移動（型）社会が到来する中で、地域社会は地域外から来訪するさまざまな移動者などどのように向き合うかは重要な課題である。本研究は北海道釧路市を対象に、長期滞在事業に対する市民意識調査を実施し、市民が長期滞在者や市役所の取り組みをどのように捉えているのか、また長期滞在者に対する市民意識の形成にあたり、行政がどのような役割を果たしているのか検討してきた。

その結果、多くの長期滞在者が釧路市を訪れていることを知っていたが、市役所の長期滞在事業や長期滞在者が地域活動にかかわっていることに対する「認知」はそれほど高くなかった。また、長期滞在者との交流経験や交流意向を持つ回答者も多いとはいえず、必ずしもこうした「行動」を望んではない。しかし、長期滞在者の増加や市役所の長期滞在事業に対する「支持」は高く、長期滞在者の受け入れを好意的に捉えていることが明らかとなった。また、長期滞在者の増加に向けて、釧路の情報発信が重要であると認識していること、交流経験や地域活動への参加が長期滞在者との交流意向を高める可能性が示唆された。さらに、市役所の長期滞在事業が市民と長期滞在者の交流に影響を与えるだけでなく、交流の幅を広げる契機になっていることを指摘した。これらを通して、市民と長期滞在者の個人的なつながりから地域社会と長期滞在者の関係性へと変化し、良好な関係性の構築に至っている可能性を明らかにした。

釧路市では長期滞在事業を推進しているが、これらの取り組みが移住につながっていないという指摘もある⁸⁾。実際、釧路市も長期滞在や二地域居住から移住をめざす段階的な施策に取り組んでおり（森重 2023b：63）、「釧路市まちづくり基本構想」においても、「通年で交流人口の拡大や長期滞在から移住へとつながる取り組みが必要」（釧路市 2018：55）としている。

しかし、最初に指摘したように、現代社会は「移動（型）社会」である。多くの地域が「体験移

住」や「お試し移住」などと称して移住を推進しているが、日本の人口が減少局面にある中で、多くの地域の移住政策が奏功するとは考えにくい。

重要なことは、人口を増やす、あるいは維持するというのではなく、そこでの暮らし方や地域社会へのかかわり方を提案することではないか。その意味で、本研究で取り上げた釧路市の長期滞在事業や市民と長期滞在者の関係性は多くの示唆をもたらしている。もちろん、「限界集落」といわれる地域ではそのような悠長なことを言っている状況ではないし、まだまだ定住を前提とした社会のしきみが多く残っているが、地域外から多様な来訪者を受け入れるだけではなく、地域社会に関心を向ける機会をいかにつくり出していかも、地域社会の持続性を考える上で欠かせない。

ただし、本研究で考察した市役所の長期滞在事業の役割は、あくまで一事例から見た可能性を示したに過ぎない。国内で長期滞在事業に本格的に取り組んでいる地域が少ないこともあるが、今後いくつかの地域事例の比較分析を行いながら、その理論化を試みていきたい。

【謝 辞】

市民意識調査の実施にあたって、釧路市総合政策部市民協働推進課の皆さまにはお忙しいなか、多大なるご協力を賜った。調査にご回答いただいた市民の皆さまも含め、ここに記して、心より感謝の意を表したい。

【付 記】

本研究は、独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究(C)「地域再生に向けた地域外関係者のかかわりと観光地域ガバナンスに関する研究(20K12443)」(2020～2023年度、研究代表者：森重昌之)および基盤研究(A)「パンデミック時代の人口減少地域の観光による持続可能なコミュニティ作りへの比較研究(21H04382)」(2021～2025年度、研究代表者：四本幸夫)の研究成果の一部である。

注

1) 訪日外客数は、2023年下半年から回復基調にあ

り、10月にはコロナ禍前の2019年同月水準を初めて上回った。また、2024年3月には単月として初めて300万人を超え、3ヶ月連続で300万人を上回った。JNTO「訪日外客統計」<https://www.jnto.go.jp/statistics/data/visitors-statistics/> (2024.06.29閲覧) 参照。

- 2) 気象庁によると、猛暑といわれた2023年の釧路市の最高気温は、8月18日の29.7℃で、30℃を超えた日は1日もなかった。ちなみに、2023年の札幌市の最高気温は36.3℃(8月23日)で、8月で30℃を超えた日は22日あった。気象庁ホームページ <https://www.jma.go.jp/jma/index.html> (2024.04.05閲覧) 参照。
- 3) 釧路市市民協働推進課提供資料
- 4) 例えば「積極的・行動的⇄落ち着いた」の場合、5段階で最も前者(積極的・行動的)に近いスケールを「1」、最も後者(落ち着いた)に近いスケールを「5」とし、平均値を算出している。
- 5) 「くしろステイメンバースカード」とは、釧路市に長期滞在・二地域居住している人びとを対象に、図書館の図書貸し出しや市内の一部施設の入館料、生涯学習センターの講座受講などを、釧路市民と同じ条件で利用できるカードで、市役所に申請すれば無料で発行される。
- 6) 例えば、北海道新聞(2023年8月16日)「冷涼な釧路、長期滞在回復 7月末時点、過去最多迫る勢い 市、レジャー情報発信や料理教室も」<https://www.hokkaido-np.co.jp/article/894041/> (2024.06.11閲覧) や北海道新聞(2023年9月7日)「道内移住体験「ちょっと暮らし」 釧路市が12年連続首位」<https://www.hokkaido-np.co.jp/article/905388/> (2024.06.12閲覧)、釧路新聞(2023年12月19日)「長期滞在4年ぶり2万日超 2023年度上半期」<https://hokkaido-nl.jp/article/32104> (2024.06.11閲覧) など参照。
- 7) 延藤(2013: 41-42)は、「わたくしから始まりまわりをゆるやかに引きつけ、やがて公共の幸福に導く」ことを「私発協働」と呼んでいる。
- 8) 例えば、日本経済新聞(2017年10月3日)「釧路市人口、道内5位に転落へ 事業所が減少、若年層流出」<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO21789640S7A001C1L41000/> (2024.06.12閲覧) 参照。

参考文献

- 遠藤晶久(2024)「移住から見る大豊町のいまと将来」飯國芳明・上神貴佳編著『人口縮減・移動者会の地方自治—人はうごく、町をひらく』有斐閣、206-233ページ。
- 延藤安弘(2013)『まち再生の術語集』岩波書店、211ページ。

Oct. 2024

長期滞在者に対する市民意識と行政の役割

釧路市 (2018)『釧路市まちづくり基本構想 (2018 ～ 2027 年度)』102 ページ。

作野広和 (2019)「人口減少社会における関係人口の意義と可能性」『経済地理学年報』第 65 巻, 10-28 ページ。

敷田麻実 (2023)「移動縁を生きる人びと」敷田麻実・森重昌之・影山裕樹編著『移動縁が変える地域社会』水曜社, 10-41 ページ。

田中輝美 (2021)『関係人口の社会学－人口減少社会の地域再生』大阪大学出版会, 385 ページ。

日本交通公社 (2013)『住んでよし, 訪れてよしの観光地域づくり まずは住民意識の把握から!－「観光に対する住民意識に関する研究」より』, 20 ページ。

橋本行史 (2022)「関係人口概念の考察－観光まちづくりとの関わりを中心として」『政策創造研究』第 16 号, 55-84 ページ。

深川光耀 (2024)『私発協働のまちづくり－私からはじまる子どもを育む地域活動』晃洋書房, 254 ページ。

堀本雅章 (2018)「沖縄県竹富町鳩間島における「瑠璃の島」放映後の観光に対する住民意識」『季刊地理学』第 70 巻, 1-16 ページ。

森重昌之 (2020)「来訪者のエンパワーメントによるまちづくりの可能性－北海道釧路市の長期滞在事業を事例に」『日本計画行政学会第 43 回全国大会研究報告・ワークショップ要旨集』, 53-58 ページ。

森重昌之 (2023a)「地域課題と来訪者ニーズの結びつ

けによる互酬関係構築の可能性－北海道釧路市の長期滞在事業を事例に」『第 46 回日本計画行政学会全国大会発表要旨集』, S3-1_2.1-4 ページ。

森重昌之 (2023b)「快適な生活を求めて訪れる長期滞在者－北海道釧路市」敷田麻実・森重昌之・影山裕樹編著『移動縁が変える地域社会』水曜社, 60-78 ページ。

森重昌之・内田純一・敷田麻実・海津ゆりえ (2020)「地域外関係者のかかわりの類型化によるまちづくりの実践」『観光研究』第 32 巻第 1 号, 47-59 ページ。

森重昌之・敷田麻実 (2023)「地域にかかわる多様な移動者」敷田麻実・森重昌之・影山裕樹編著『移動縁が変える地域社会』水曜社, 44-58 ページ。

Elliott, A. and Urry, J. 2010, *Mobile Lives*, Routledge.

遠藤英樹監訳 (2016)『モバイル・ライヴズ』ミネルヴァ書房, 266 ページ。

O'brien, R. M. 2007, A Caution Regarding Rules of Thumb for Variance Inflation Factors, *Quality & Quantity*, Vol.41, pp.673-690.

Yoo, C. Y. 2008, Unconscious Processing of Web Advertising: Effects on Implicit Memory, Attitude toward the Brand and Consideration Set, *Journal of Interactive Marketing*, Vol.22, No.2, pp.2-18.

(2024 年 7 月 12 日掲載決定)

参考資料 依頼状

令和 5 年 11 月

釧路市の長期滞在事業に関する市民アンケート調査への協力をお願い

釧路市総合政策部市民協働推進課

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は市政運営にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

釧路市には夏季を中心に、2 週間以上滞在する長期滞在者が毎年たくさん訪れています。市役所では観光客だけでなく、こうした長期滞在者の受け入れを推進するため、さまざまな事業を実施しております。この度、長期滞在事業に関して市民の皆さまのご意見を事業に反映させるため、阪南大学国際観光学部森重研究室と協力してアンケート調査を実施することにいたしました。ご多用のところを誠に恐れ入りますが、下記の要領に沿って調査にご協力いただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

- 1) 以下の QR コードを読み取り、お答えください。設問は選択式が中心で、全部で 11 問です。5～10 分でお答えいただける内容です。
- 2) QR コードを読み取れない場合、またパソコンなどでの回答をご希望の場合は、お手数ですが、URL を入力してご回答ください。
- 3) 調査対象者は無作為に抽出しており、統計的に処理するため、回答者が特定されることはありません。
- 4) お忙しいところを誠に恐縮ですが、11 月 30 日（木）までにご回答ください。
- 5) ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

釧路市市民協働推進課 担当：青木・金子 TEL：0 1 5 4－3 1－4 5 0 4

E-mail：shi-shiminkyoudou@city.kushiro.lg.jp

【回答用 QR コード／URL】



QR コードを読み取れない場合は、お手数ですが、以下の URL を入力してご回答ください。

<https://onl.bz/WQkwyBa>

オー エヌ エル. ビー セット/ ダブルユー キュー ケー ダブルユー ワイ ビー エー
(下線は大文字です)

(裏面もご覧ください)

参考資料 紹介資料

釧路市の長期滞在について

釧路市市民協働推進課

◆道内で長期滞在者が最も多いまち・釧路

釧路市には、夏の冷涼な気候を求め、毎年全国から多くの方が長期滞在で訪れています。令和4年度には2,267人が長期滞在し、延べ滞在日数は23,726日となりました。

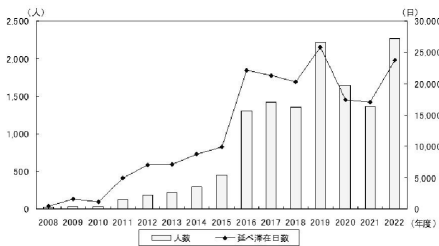


図 釧路市の長期滞在者数・延べ滞在日数の推移

現在では、北海道体験移住「ちよっと暮らし」実績において、滞在人数・延べ滞在日数ともに、平成23年度から連続で第1位を獲得しています。

表 「ちよっと暮らし」利用者等上位10市町村

順位	利用者数	順位	滞在日数
1	釧路市 1,362人	1	釧路市 17,087日
2	東川町 91人	2	東川町 9,785日
3	浦河町 90人	3	秩父別町 6,994日
4	清里町 52人	4	新ひだか町 4,447日
5	厚沢部町 45人	5	浦河町 3,127日
5	利尻富士町 45人	6	美瑛町 3,099日
7	長沼町 44人	7	上士幌町 2,136日
8	美瑛町 41人	8	沼田町 1,983日
9	沼田町 37人	9	士幌町 1,952日
10	上士幌町 34人	10	紋別市 1,346日

(出典) 令和3年度ちよっと暮らし実績

◆コロナ禍でも安定した長期滞在の受け入れ

令和2年に始まった新型コロナウイルスの感染拡大によって、釧路市の観光入込客数は前年度に比べ、半分以上に落ち込みました。しかし、長期滞在者数は3分の1の減少にとどまり、令和4年度には9割まで回復しています。もちろん、単純に比較はできませんが、長期滞在者の中に釧路ファンがたくさんいることがうかがえます。

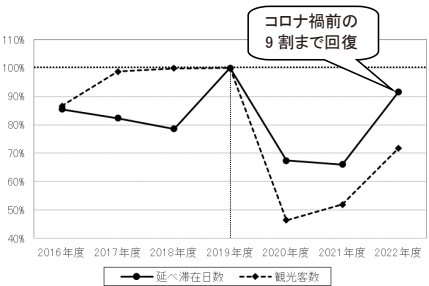


図 延べ滞在日数と観光客数の比較

◆長期滞在者の受け入れ促進に向けた取り組み

釧路市では、一定の条件を満たした長期滞在者に、市内の一部施設を市民と同じ条件で利用できる「くしろステイメンバースカード」を発行しています。また、くしろ長期滞在ビジネス研究会（事務局：釧路市）では、長期滞在者に向けて、釧路地域の文化や歴史、自然などを学ぶ「地域学習講座」や、滞在中の情報交換や長期滞在者同士のつながりをつくる「交流会」を開催しています。

◆長期滞在者の釧路での活動

釧路のことを気に入って毎年訪れる長期滞在者の中には、釧路湿原の再生ボランティア活動や釧路川の清掃ボランティア活動、町内会活動などに参加する方もいます。また、くしろ港まわりの市民踊りパレードや文化サークルなどに参加して、市民とともに釧路を盛り上げている方々もおられます。



写真 市民踊りパレードを楽しむ長期滞在者の皆さん

参考資料 質問項目

釧路市の長期滞在事業に関する市民アンケート調査

釧路市には夏季を中心に、2 週間以上滞在する長期滞在者が毎年たくさん訪れています。市役所では、こうした長期滞在者の受け入れを推進するため、さまざまな取り組みを行っております。この度、長期滞在事業に関して市民の皆さまからご意見をおうかがいするため、アンケート調査を実施することいたしました。ご多用のところを誠に恐れ入りますが、調査にご協力いただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

1. 釧路市に2 週間以上滞在する長期滞在者が毎年多数訪れていることをご存じですか。
 - ☐ よく知っている
 - ☐ 何となく知っている
 - ☐ 聞いたことくらいはある
 - ☐ まったく知らない
2. 長期滞在者を受け入れるため、市役所がさまざまな事業を実施していることをご存じですか。
 - ☐ よく知っている
 - ☐ 何となく知っている
 - ☐ 聞いたことくらいはある
 - ☐ まったく知らない
3. 長期滞在者を受け入れるため、市役所がさまざまな事業を実施していることについて、どう思いますか。
 - ☐ とても良い
 - ☐ 良い
 - ☐ あまり良くない
 - ☐ 良くない
 - ☐ 特に何も思わない
4. 釧路市を訪れる長期滞在者とかかわってみたいと思いますか。
 - ☐ ぜひかかわってみたい
 - ☐ 多少はかかわってみたい
 - ☐ どちらでもない
 - ☐ かかわりたくない
5. 釧路市を訪れる長期滞在者とお話しされたことはありますか。
 - ☐ はい（→5-1 へお進みください）
 - ☐ いいえ（→6 へお進みください）

Oct. 2024

長期滞在者に対する市民意識と行政の役割

5-1. (5で「はい」を選んだ方は)どのような場面でお話しされましたか。(複数回答可)

- ☐近所で(町内会なども含む)
- ☐趣味の場で(サークルやスポーツ、イベントなど)
- ☐買い物の場で
- ☐その他…

6. 釧路市に長期滞在者が増えることについて、どう思いますか。

- ☐とても良い(→6-1へお進みください)
- ☐良い(→6-1へお進みください)
- ☐あまり良くない(→6-3へお進みください)
- ☐良くない(→6-3へお進みください)
- ☐特に何も思わない(→7へお進みください)

6-1. (6で「とても良い」「良い」を選んだ方は)その理由をお聞かせください。(複数回答可)

- ☐釧路市にお金を落としてくれるから
- ☐いろいろな人びとと交流できるから
- ☐釧路市の人口が減っているから
- ☐多くの人びとに釧路市を知ってもらえるから
- ☐その他…

6-2. (6で「とても良い」「良い」を選んだ方は)長期滞在者を増やすために、市役所はどのような取り組みをすればよいと思いますか。ご意見やアイデアがありましたらお聞かせください。

記述式テキスト(短文回答)...

6-3. (6で「あまり良くない」「良くない」を選んだ方は)その理由をお聞かせください。(複数回答可)

- ☐混雑が増えそうだから
- ☐静かに暮らしたいから
- ☐今までと暮らしや文化が変わりそうだから
- ☐税金を使ってまで増やす必要はないから
- ☐その他…

7. 長期滞在者がボランティアや祭り、文化サークルなど、市民とともに釧路を盛り上げたり、貢献したりする活動に参加していることをご存じですか。

- ☐よく知っている
- ☐何となく知っている
- ☐聞いたことくらいはある
- ☐まったく知らない

8. 釧路市に観光客が増えることについて、どう思いますか。

- ☐ とても良い
- ☐ 良い
- ☐ あまり良くない
- ☐ 良くない
- ☐ 特に何も思わない

9-1. あなたが思う釧路市民のイメージについて、あてはまるものを選んでください。

1 2 3 4 5

積極的・行動的 ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ 落ち着いた

9-2. あなたが思う釧路市民のイメージについて、あてはまるものを選んでください。

1 2 3 4 5

親しみやすい ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ 遠慮がち

9-3. あなたが思う釧路市民のイメージについて、あてはまるものを選んでください。

1 2 3 4 5

楽観的 ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ 現実的

9-4. あなたが思う釧路市民のイメージについて、あてはまるものを選んでください。

1 2 3 4 5

おおらか ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ こまやか

9-5. あなたが思う釧路市民のイメージについて、あてはまるものを選んでください。

1 2 3 4 5

外向的 ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ 内向的

10. 釧路市の長期滞在に関してご意見がございましたら、自由にご記入ください。

記述式テキスト...(短文回答)...

11. 最後に、あなた自身についてお聞かせください。

11-1. 年代

- ☐ 10 代
- ☐ 20 代
- ☐ 30 代
- ☐ 40 代
- ☐ 50 代
- ☐ 60 代
- ☐ 70 代以上

Oct. 2024

長期滞在者に対する市民意識と行政の役割

11-2. 性別

- ☐ 男性
- ☐ 女性
- ☐ 答えたくない

11-3. 職業

- ☐ 有職者
- ☐ 無職
- ☐ 学生
- ☐ その他…

11-4. 釧路市での在住年数

- ☐ 1 年未満
- ☐ 1～2 年
- ☐ 3～5 年
- ☐ 6～10 年
- ☐ 11 年以上

11-5. サークル活動に参加していますか。

- ☐ 参加している
- ☐ 以前参加していたことがある
- ☐ 参加したことがない

11-6. ボランティア活動や NPO 活動に参加していますか。

- ☐ 参加している
- ☐ 以前参加していたことがある
- ☐ 参加したことがない

11-7. (国内・海外、目的を問わず) 1 年間にどのくらい旅行に行きますか。

- ☐ まったく行かない
- ☐ 1～2 回
- ☐ 3～5 回
- ☐ 6 回以上